

# 東紀州地域における複式版外国語年間指導計画 に基づく実践～小学校外国語担当教員の視点から～

大野恵理\*・須曾野仁志\*\*・萩野真紀\*・榎本和能\*

Implementing multi-grade curriculum in Higashikishu;  
Perspectives of elementary school teachers of English

Eri ONO Hitoshi SUSONO Maki HAGINO Kazuyoshi ENOMOTO

## 要 旨

三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎の教員である著者らが開発した小学校第 3~6 学年用の「複式版年間指導計画」に基づく外国語教育実践は 3 年目を迎えた。本研究では、この「複式版年間指導計画」に基づく実践を教員の視点から検証をした。三重県南部の 5 市町の小学校には、他の学年の児童と合わせて 16 人までの複式学級が多い。2018 年度から、著者らが開発した「複式版年間指導計画」に基づいて、本地域のほぼすべての複式学級で外国語が指導されている。「複式版」とは同単元同内容異程度の指導案で、2 学年分の学習内容を圧縮して 1 年間で学習し、2 年間で 2 回くり返す指導計画である。2018、2019 年度末の調査では、複式学級で複式版に基づいて指導を受けた児童と、単式学級で通常の指導計画に基づいて指導を受けた児童の聞き取り・書き取りテストの結果に有意差がないことが明らかとなっている。本研究では、事前調査で明らかとなった「複式版年間指導計画」の長所や短所について 5 人の教員に質問紙調査を行った。地域の児童、教員等の実情に合わせて、今後さまざまな改善が必要であるが、現段階では「複式版年間指導計画」に基づく実践は、地域の実情に合っていると考えられる。

**キーワード:** 小学校、複式学級、外国語、外国語活動、年間指導計画

## 1. はじめに

三重県南部の 5 市町（紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町）にある小学校 31 校のうち 18 校に複式学級がある（2020 年度）。複式学級とは、「他の学年の児童と合わせて 16 人までの時は、これをもって 1 学級を編成する」ことである（文部科学省、2000）。三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎の教員である著者らは、2017 年よりこの地域の複式学級における外国語の教育支援を行っている。

### 1. 2017 年度：外国語活動複式版年間指導計画の開発

新学習指導要領への移行措置期間の前年である 2017 年の 9 月より、著者らによる三重県南部地域である東紀州における教育支援活動が始まった。この地域の教育関係者からの聞き取り調査の中で、小学校複式学級

における外国語教育への支援要請が多かった。この地域の多くの複式学級では「A・B 年度方式」（同単元同内容同程度）で外国語活動を指導していたが、この方式での外国語指導は、この地域では以下の 2 点において不向きであった。1 点目は、単式学級であれば第 6 学年で学習する内容（例：When is your birthday?）を複式学級においては第 5 学年で学習したり、逆に単式学級であれば第 5 学年で学習する内容（例：Hello.）を複式学級においては第 6 学年で学習するため、体系的な内容の指導が困難で、「子どもが英語嫌いになっている」と報告された。2 点目は、この地域では複式学級から単式学級の小学校へ転校するケースがあり、第 5 学年で第 6 学年の内容を学習した児童が、第 6 学年で単式学級

\*三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎

\*\*三重大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻

の小学校へ転校した場合には、第 5 学年の学習内容に触れる機会がないと報告された。これらの 2 点を解決して「児童みんなが楽しい雰囲気の中で学習できる」指導法の開発の要請があった。

この要請に応える形で、著者らにより 2018 年 3 月に「複式版外国語活動年間指導計画」が開発された。この指導計画は同教科同単元同内容異程度（完全一本案、くりかえし案）で、2 学年分の学習内容を 1 年間に圧縮して単元を構成し、2 年間くりかえして指導する案である。この案の長所は、両学年が同じ雰囲気の中で学習しながらも学年差に応じた指導が可能になることや、上学年の児童が 1 年目の学習目標に到達できていない場合には、もう一度学習できることである。しかし圧縮により時間的な余裕がなくなることや、系統性を考慮した年間指導計画作成の必要性が短所として挙げられている（島根県教育委員会、2017）。著者らは、圧縮による時間的な余裕がなくなることについては、小学校の既存の ICT 機器（例：パソコン、モニタ等）や、無料で使えるデジタル教材（例：エイゴビートの動画等）を積極的に活用して短所を補い、系統性を考慮した年間指導計画の作成については、英語科の中学校教員免許を持つ大野・萩野・須曾野が取り組んだ（大野・須曾野・萩野・榎本、2018）。

## 2. 複式版年間指導計画の検証

筆者らは、補助教材 We Can! (1), (2)を圧縮した複式版年間指導計画を、2018 年～2019 年に教育委員会等を通して東紀州地域の小学校に配付した。配付にあたり、「圧縮版」ではなく「複式版」としたのは、「圧縮」と呼ぶことに抵抗がある教員を配慮したためである。

そして、複式版年間指導計画に基づく実践の効果を検証するために、2018 年度末および 2019 年度末に、複式学級の第 5～6 学年と、単式学級の第 6 学年の「聞き取り」と「書き取り」の 2 種類のテストをして比較した。2018 年度末（大野ら、2019）および、2019 年度末（大野ら、in press）において、複式学級の第 5～6 学年と、単式学級の第 6 学年の児童の 2 種類のテストの得点は、統計的に有意差は見られず、「複式学級で複式版年間指導計画に基づいて学習をしても、単式学級と同じ学習成果が得られる」と結論づけた。

2018、2019 年度は児童の視点から「複式版年間指導計画」の効果を検証してきたが、2020 年度は教員の視点から「複式版年間指導計画」を検証することにした。2019 年度末に行った教員アンケート（有効回答数 12）で寄せられた、複式版年間指導計画に基づく実践についての東紀州地域の教員の意見のうち、島根県教育委員会の「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」（島根県教育委員会、2020）に挙げられている圧縮版年間指導計画の長所と短所に合うものを抽出した。本

研究では東紀州地域の複式学級で、外国語活動または外国語を担当する教員 5 名に、抽出された意見についてどのように考えるか意識調査を行った。

## 2. 方法

「複式版年間指導計画」に基づく外国語活動および外国語を指導する教員 5 名に、事前調査で抽出された意見についてどのように思うか意識調査を行った。以下、調査協力者、時期、方法を説明する。

### 1. 調査協力者

調査協力者は東紀州地域の小学校の複式学級において、外国語教育を担当する教員 5 名である。5 名とも単式学級での外国語の指導経験がある。複式学級における外国語の指導歴は表 1 の通りである。

表 1. 調査協力者の複式学級における外国語指導歴

教員	A・B 年度案	複式版
A		○
B	○	○
C	○	○
D	○	○
E		○

○（指導経験あり）

### 2. 調査時期

2020 年 11 月 10 日～11 月 30 日

### 3. 調査方法

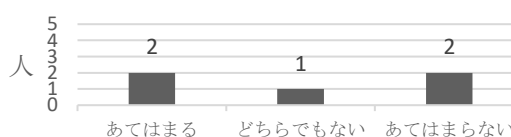
事前調査より抽出された意見（例：圧縮版での授業を進めるにあたり、5 年生と 6 年生の到達目標を変えて授業を計画し、評価する必要がある）に対して、3 つの選択肢（あてはまる、どちらでもない、あてはまらない）から適切なものを 1 つ選び、なぜその選択肢を選んだかを記述する質問紙調査を行った。

## 2. 結果

### 1. 質問①

圧縮版での指導を進めるにあたり、5 年生と 6 年生の到達目標を変えて授業を計画し、評価する必要がある。

表 1. 到達目標や評価を変える必要がある



（あてはまる）の意見例：学年に応じて、同じことをしても変える必要があると思う。

（どちらでもない）の意見例：本来は必要なのだろう

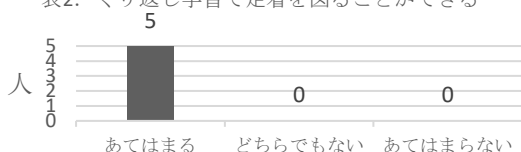
が、日ごろの業務に埋没してしまっている。ただ、上位学年にとっては有利になっているだろう。

(あてはまらない) の意見例：同じ内容の学習に目標差をつけると、かえって評価者の負担増が見込まれたり、子どもたちが不公平感を抱くことにもつながりかねず、通常形で良いと思う。

## 2. 質問②

圧縮版で学習することで、語彙や表現にくりかえし触れることができ、定着を図ることができる。

表2. くり返し学習で定着を図ることができる

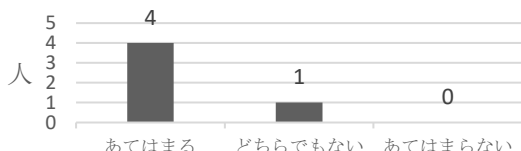


(あてはまる) の意見例：4年生は、3年時の時に学習した時に「???」という状態であっても、4年時には自信を持って活動できているので、くり返すことは有効だと感じている。

## 3. 質問③

圧縮版で2学年の児童と一緒に大人数で学習すると楽しめる。

表3. 大人数で学習すると楽しめる



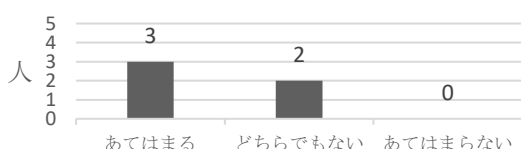
(あてはまる) の意見例：英語学習の醍醐味は人とのコミュニケーション！当然、大人数で学習する方が楽しい。

(どちらでもない) の意見例：2学年の児童が大人数ですという理由で楽しめているということではなく、盛り上がるかどうかはクラスの雰囲気や児童の性格によるところが大きいです。

## 4. 質問④

上学年(例：第4学年)が、下学年(第3学年)を教える姿が見られた。

表4. 上学年が下学年を教える姿が見られた



(あてはまる) 4年生は、昨年度は圧縮版を1回しているので、3年生に教えようとする姿が見られます。

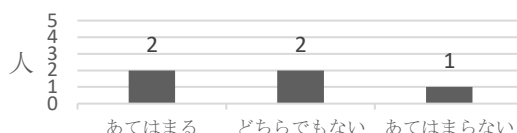
(どちらでもない) 特に、そのような機会を設けてい

ない。機会を作れば有効なのかもしれない。

## 5. 質問⑤

2学年分を1年でするのは忙しい。

表5. 2学年分を1年でするのは忙しい



(あてはまる) の意見例：特に下学年にとっては戸惑うこともあり、スムーズにいきにくいこともある。

(どちらでもない) の意見例：必要によって分けてくれているので、全体量を減らしてくれている。

(あてはまらない) の意見例：リスニング等は、テキストにあるものをその時間にすべて聞くのではなく、分量を減らすことで、1年間で2学年分を十分することはできると思います。

## 3. 考察とまとめ

2019年度末に行った教員アンケートで挙げられた意見のうち、島根県教育委員会の「複式学級指導の手引き(令和元年度改訂版)」にある、圧縮版の長所と短所に関連する意見について、5名の教員に意識調査を行った。手引きに記された長所と短所と合わせて結果を考察する。

### 1. 質問①学年ごとに到達目標を変えて評価

手引きでは、「同じ雰囲気や学習しながらも、学年差に応じた指導が可能になる」ことが1つ目の長所として挙げられている。著者らが開発した「複式版年間指導計画」は、「同単元同内容」であるが、「異程度」については地域の実情を踏まえ、あえて「ほぼ同程度」とした。

東紀州地域にとっては圧縮版に基づく外国語の指導は3年目で、教員は「圧縮版」に基づく指導や、新しい教科書に慣れていない。「異程度」で複雑に指導することより、指導法や教科書の内容に慣れることを優先と考える。よって一部のみ、学年差に応じた指導(例：第5学年では always と never、第6学年では sometimes と usually についての日課を公表できるようにする)を略案で示し、教員研修等で伝えている。圧縮版による指導が4年目となる2021年度以降は、学年ごとに到達目標を変えて評価ができる年間指導計画が、必要になってくると考えられる。

### 2. 質問②くり返し学習することで定着が図れる

手引きでは、「教材研究を系統的、発展的に行うことができる」ことが、2つ目の長所として挙げられている。

これについては、今回調査協力した全ての教員が圧縮版のくり返し学習効果があると回答している。また、著者らが2018、2019年度に実施した「聞き取り」および「書き取り」テストでも、複式学級と単式学級の児童の得点に統計的な有意差はなく、「圧縮版年間指導計画に基づく実践は学習の質や量」が確保されていると推測される。

### 3. 質問③大人数で学習すると楽しめる

手引きでは、「学級としての一体感が生まれやすい」ことが、3つ目の長所として挙げられている。クラスの雰囲気や児童の性格によるが、「英語学習の醍醐味は人とのコミュニケーション！当然、大人数で学習する方が楽しい」という回答の通りであると考えられる。大人数で「コミュニケーションを図る素地となる資質や能力を育成する」という教科目標を達成するには、圧縮版年間指導計画は非常に有効であると考えられる。

### 4. 質問④上学年が下学年を教える姿が見られた

手引きでは、「直接指導と間接指導等の方法が複雑で難しい」ことが、短所の一つに挙げられている。著者らが開発した「圧縮版年間指導計画」は「同単元同内容異程度」であるが、異程度は全体の1~2割としているため、上学年に異程度の学習内容を間接指導する場面が限られている。さらに前述のとおり、教師が指導法や教科書の内容に慣れるまでは、異程度については現段階では強調していないため、2020年度の圧縮版年間指導計画では間接指導はほとんどしない形になっている。異程度を指導するための間接指導については、今後、検討していくことを計画している。

### 5. 質問⑤2学年分を1年でするのは忙しい

手引きでは、「教材の研究に時間を要し教師の負担が増加する」ことが2つめの短所に挙げられている。質問紙調査で「誰にとって忙しい」ということを明記しなかったため、「児童として忙しい」かどうかについて回答された。「下学年にとっては初めての学習内容で戸惑うことがありスムーズにいかないことがある」という回答がある一方で、「学習内容を減らしているため1年間で2学年分を学習することは十分にできる」という回答があった。

圧縮版では、2学年分の学習内容の8割程度を下学年時に学習し、残りを上学年時に学習するように計画されている。児童にとって学習内容が多すぎることがないようにさまざまな工夫がされている（例：発信語彙を中心に指導する）（大野ら、2019）。学習内容が多すぎて児童が「英語が嫌い」や「英語が分からない」となるのではなく、学習内容に優先順位をつけて「コミュニケーションが楽しい」と体感できるように、圧縮版

年間指導計画に合わせて指導案（略案）も公開している（第5~6学年70時間分、第3~4学年35時間分）。

学習内容に優先順位をつけることは、教科の専門的知識を必要とする。また、圧縮版で新しい教科である外国語を指導するには、年間指導計画だけでなく略案も必要であるが、作成するのは非常に時間と手間がかかる。こうした事情から、他地域の多くの複式学級で外国語は「A・B年度方式」で指導されているのが現実である。

東紀州地域では圧縮版で指導するか、A・B年度方式で指導するかは、教員に任されている。2020年度で圧縮版年間指導計画を配付して3年目になり、東紀州地域のほぼすべての複式学級で外国語の指導は圧縮版年間指導計画に基づいて行われている。「圧縮版からA・B年度方式に戻した」という事例は報告されていない。

圧縮版年間指導計画や略案を作成するには、専門的知識や経験が必要で、さらに時間と手間がかかり、各学校や教育委員会等で作成するのは非常に厳しい。各教科書の出版社により圧縮版年間指導計画や略案が作成されることが期待される。

## 付記

調査に協力を協力して下さった東紀州地域の5人の先生、教育委員会に深謝します。

## 参考文献

- 大野恵理・須曾野仁志・萩野真紀・榎本和能. (in press). 三重県南部地域における圧縮版年間指導計画に基づく外国語指導の実践について. 「へき地教育研究」74, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
- 大野恵理・須曾野仁志・萩野真紀・榎本和能. 東紀州サテライトによる複式版外国語年間指導計画に基づく実践. 三重大学教育学部研究紀要 教育実践. 71, p515-522, 2020
- 大野恵理・須曾野仁志・萩野真紀・榎本和能. 東紀州地域における複式版外国語活動年間指導計画の提案と実践. 三重大学教育学部研究紀要 教育実践. 70, p485-490, 2019
- 島根県教育委員会 (2020). 複式学級の手引き（令和元年度改訂版）<http://eio-shimane.jp/files/original/202006011646285814ba58956.pdf>（参照日 2020.11.29）
- 文部科学省 (2000). 今後の学級編成及び教員定数 改善に関する意見

東紀州地域における複式版外国語年間指導計画に基づく実践～小学校外国語担当教員の視点から～

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/069/shiryo/attach/1291696.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/069/shiryo/attach/1291696.htm) (参照日 2018.07.07)